妙智會

9月２８日本部供養会
本殿大講堂（ライブ配信）
宮本法嗣先生ご指導

Vol.140
2024.10.6
1/2

今日は個人について話したいと思います。

私たちは「怒る」ということは簡単にできます。なぜならば、人間は感情によって動いているからです。子どもや周りの人に対して怒る時の感情というのは、まともではありません。ほとんどの方は落ち着いて「叱る」ということはできないのです。

さらに生活の中で、子どもや周りの方たちを褒める時は、感情を落ち着かせなければいけないのですから。褒めるということは、なかなか容易なことではありません。

プレゼントをもらって、感情的に嬉しくなって「ありがとう、あなた素敵」と、そういう褒め言葉はあるかもしれません。しかしそれは一時です。冷静に客観的に相手を見て、「えらいね、立派だね」と、そうやって褒めるのが本当の褒めるということです。ですから褒めることは容易ではありません。

人間は、感情的に相手を判断します。お釈迦さまはそれは良くないとおっしゃって、私たちに様々な修行を与えてくださっています。少しでもお釈迦さまの願っているような人にならなければいけません。周りに対して、怒るということは、感情で動いてるんだということを悟り、それを転換し、相手の良いところを見て、褒める方に変えられるようになれば、本当に素晴らしいことなのです。

私たちは大勢で生きていかなければいけません。１人では生きていけません。たまに、１人で生きていきたいなと思う人はいらっしゃると思いますが、やはり人間は人と人との結びつきで生きているわけであります。

ですが、因縁的に言いますと、私たちは「個人」であり、1人ひとりです。よく會主さまが婦人部の方に「子どもは所有物ではないんだよ。お腹を痛めた子でも、自分のものではありません」とおっしゃっていました。家族も 1 人ひとりの集合体です。それはお釈迦さまもおっしゃいましたし、日蓮大聖人さまのお言葉にもございます。

例えば、結婚すると、イライラしたり、先ほど言ったように叱咤してしまうことがありますね。それは相手が自分のものだと勘違いしているからです。これは間違った考えです。夫婦は血が繋がってないのですから、ただ縁があって家族になったのです。こう言ってしまうと、寂しいかもしれませんが、そこに行き着かないと、先ほど言ったように、感情が揺れ動き過ぎて、様々な障害が出てくるのです。夫も嫁も子どもたちも、皆が個人なんだと思うと、不思議と因縁が変わって、良くなっていくのです。そして、そういうことを気付いて懺悔をしていくと、相手は変わっていくのです。

「人」が大切だということです。今皆さんは一生懸命お導きをしてくださっています。人が人を導くのです。自分の支部に入ったからといって、信者さんは自分のものになったわけではありません。なぜ言うこと聞かないんだと思うことがあるかもしれませんが、それは当たり前です。生まれ育った環境が違いますし、個人と個人なのですから。それを思いながら支部を作っていくのですよ。會主さまが今一番つらいのはせっかく、1人ひとりを導いたのに、慈悲をかけていないということです。それを忘れずにお願いしたいと思います。以上です。今日はありがとうございました。